



2011年3月期 決算説明資料

2011年 5月11日
富士ソフト株式会社

Retail Solutions



FSCloud® EDI

FSCloud® Logistics

FSCloud® PAM



目次

- P. 1 ◇ 2011年3月期 連結業績
- P. 13 ◇ <参考>2011年3月期 単体業績
- P. 16 ◇ 第一次経営計画
- P. 24 ◇ 2012年3月期 連結業績予想
- P. 29 ◇ <参考>2012年3月期 単体業績予想

※FSCloud は、富士ソフトの登録商標です。



2011年3月期 連結業績

連結業績ハイライト

売上高は、主要子会社の減収を主因に4.9%減

- ◇主要子会社のヴィクサスが前年度の大型案件の反動減および顧客の開発延期により51億円の減収となり、連結売上高は前年比4.9%減の1,347億円となりました。
- ◇ただし単体は、下期において受注が改善し、下期の単体売上高は前年比4.1%増と上回り、通期でも前年比0.9%増と5年ぶりの増収となりました。

営業利益は、原価率の改善と販管費の抑制により15.2%増

- ◇開発案件の不採算化抑制に伴う原価率改善や継続的な販管費の抑制を図ったため、営業利益は前年比15.2%増の38億円、経常利益は1.5%増の36億円となりました。
- ◇当期純利益は、前年度に不動産の売却益を特別利益に計上した反動で、前年比32.3%減の25億円となりました。

(単位: 百万円)

	2010年3月期 実績	2011年3月期 実績	前年差	前年比
売上高	141,682	134,745	△ 6,937	95.1%
営業利益	3,293	3,793	499	115.2%
営業利益率	2.3%	2.8%	0.5%	
経常利益	3,592	3,647	54	101.5%
経常利益率	2.5%	2.7%	0.2%	
当期純利益	3,710	2,511	△ 1,198	67.7%
当期純利益率	2.6%	1.9%	-0.8%	



● 主なグループ会社の売上高

(単位:百万円)

	2010年3月期 実績	2011年3月期 実績	前年差	前年比
富士ソフト(東証一部)	70,606	71,249	643	100.9%
サイバネットシステム(東証一部)	14,411	13,019	△ 1,391	90.3%
ヴィンキュラム ジャパン(JASDAQ)	9,386	9,273	△ 113	98.8%
サイバーコム(JASDAQ)	6,392	6,306	△ 86	98.6%
ヴィクサス(非上場)	25,126	20,025	△ 5,100	79.7%
上記5社合計(連結消去前)	125,923	119,873	△ 6,050	95.2%

主なグループ会社の売上高のポイント

● サイバネットシステム

機械系や光学系のソフトウェア販売、及び既存顧客の保守契約更新が好調だったものの、前年度第1四半期まで販売していた主力製品の販売終了により減収となりました。

● ヴィンキュラム ジャパン

上期は受注までの長期化や価格競争等により前年比5.8%の減収だったものの、下期はシステム保守・運用が堅調に推移し、通期では減収幅は1.2%まで縮小しました。

● サイバーコム

上期は受注状況が厳しく前年比で8.7%の減収となったものの、下期は受注が回復し始め、減収幅は通期で1.4%まで縮小しました。

● ヴィクサス

前年度の大規模案件の反動減に加え、主要顧客の投資抑制の影響により、大幅な減収となりました。

単体業績は、P.14をご参照ください



セグメント別の売上高

(単位: 百万円)

	2010年3月期 実績	2011年3月期 実績	前年差	前年比
売上高 合計	141,682	134,745	△ 6,937	95.1%
SI事業 合計	131,028	124,643	△ 6,384	95.1%
組込系ソフトウェア開発	39,945	38,865	△ 1,079	97.3%
業務系ソフトウェア開発	47,162	46,781	△ 380	99.2%
アウトソーシング事業	19,166	15,693	△ 3,473	81.9%
その他SI事業	24,754	23,302	△ 1,451	94.1%
ファシリティ事業	2,141	2,106	△ 35	98.4%
その他事業	8,512	7,995	△ 517	93.9%

セグメント別の売上高のポイント

●組込系ソフトウェア開発

デジタルテレビ関連、スマートフォン関連は好調だったものの、通信制御系、機械制御系が落ち込み、組込系全体では減少となりました。

●業務系ソフトウェア開発

流通業はヴィクサスの大型案件の反動減により減少し、金融業は前年度に発生した法改正対応の特需の反動もあり、減少しました。

しかし、アイデア・コンサルティングを新規連結したことに伴い、全体ではほぼ前年並みとなりました。

●アウトソーシング事業

富士ソフトのデータセンタービジネスは好調なもの、ヴィクサス等の特定顧客のシステム保守・運用減少に伴い、売上は大きく減少しました。

●その他SI事業

サイバネットシステムの主力製品の販売終了を主因に減少となりました。

●その他事業

マーキュリースタッフingの連結除外により減少となりました。

● SI事業の受注高・受注残

(単位:百万円)

	受注高			受注残		
	2011年3月期 実績	前年差	前年比	2011年3月期 実績	前年差	前年比
SI事業 合計	120,617	△ 14,167	89.5%	32,385	△ 4,026	88.9%
組込系ソフトウェア開発	38,811	△ 1,132	97.2%	8,233	△ 53	99.4%
業務系ソフトウェア開発	45,331	△ 4,894	90.3%	11,509	△ 1,450	88.8%
アウトソーシング事業	13,772	△ 8,328	62.3%	6,714	△ 1,920	77.8%
その他SI事業	22,701	188	100.8%	5,928	△ 601	90.8%

受注高・受注残のポイント

● 受注高

ヴィクサスにおいて前年度に大型案件を受注したことによる反動減を主因に、通期では前年比10.5%減となりました。

しかし、半期毎の比較では、下期は上期に比べ9.2%増加し、受注状況が改善しています。

● 受注残

業務系ソフトウェア開発は、製造業やその他分野（EC関連、教育等）が増加しているものの、前年度末に受注したヴィクサスの大型案件の反動減に伴い、業務系ソフトウェア開発の金融系、流通系およびアウトソーシング事業が減少し、全体では前年比11.1%減となりました。

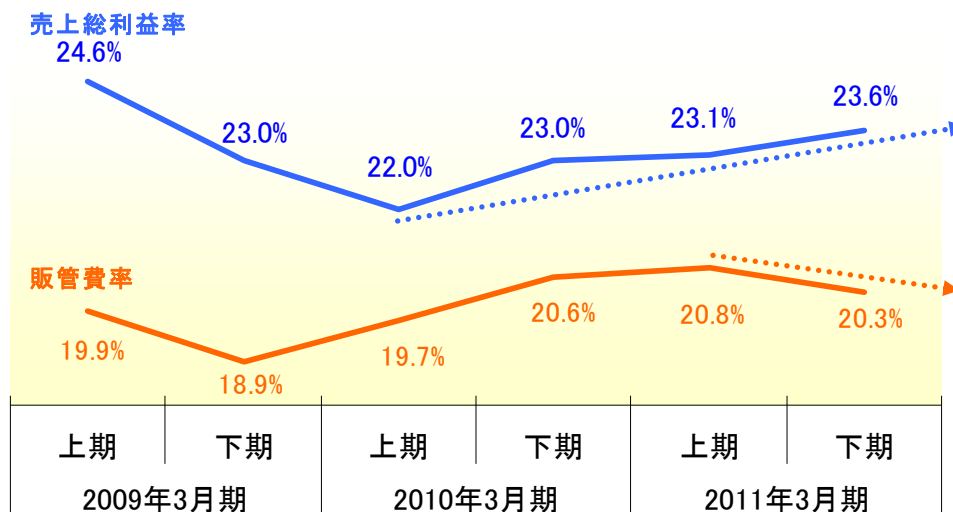


連結営業利益の主な変動要因

(単位: 百万円)

	2010年3月期 実績	2011年3月期 実績	前年差	前年比
売上高	141,682	134,745	△ 6,937	95.1%
売上原価	109,813	103,295	△ 6,517	94.1%
売上原価率	77.5%	76.7%	- 0.8%	
売上総利益	31,869	31,449	△ 419	98.7%
売上総利益率	22.5%	23.3%	+ 0.8% ①	
販売費及び一般管理費	28,575	27,656	△ 919 ②	96.8%
販管費率	20.2%	20.5%	+ 0.3%	
営業利益	3,293	3,793	499	115.2%
営業利益率	2.3%	2.8%	+ 0.5%	

■ 売上総利益率と販管費率の推移



営業利益のポイント

① 売上総利益率の主な変動要因

・富士ソフト (前年差+0.4ポイント)
プロジェクト管理強化による開発案件の不採算化抑制の効果

・ヴァインキュラム ジャパン

(前年差+7.5ポイント)
前年度に中国子会社への業務移管費用が発生した反動による売上総利益率の改善

② 販管費の主な変動要因

・富士ソフト (前年差△922百万円)
P.14に詳細を記載しています。



連結経常利益・当期純利益の主な変動要因

(単位:百万円)

	2010年3月期 実績	2011年3月期 実績	前年差	前年比
営業利益	3,293	3,793	499	115.2%
営業利益率	2.3%	2.8%	+ 0.5%	
営業外収益	1,461	1,814	353 ①	124.2%
営業外費用	1,161	1,960	798 ②	168.7%
経常利益	3,592	3,647	54	101.5%
経常利益率	2.5%	2.7%	+ 0.2%	
特別利益	3,249	735	△ 2,513 ③	22.6%
特別損失	809	542	△ 266	67.1%
税金等調整前当期純利益	6,032	3,840	△ 2,192	63.7%
法人税等合計	1,237	992	△ 245	80.2%
少数株主利益	1,085	336	△ 748 ④	31.0%
当期純利益	3,710	2,511	△ 1,198	67.7%
当期純利益率	2.6%	1.9%	- 0.8%	

営業利益以下のポイント

- ①営業外収益 (前年差+353百万円)
 ヱイクサスにおいてシステムサービス解約収入(897百万円)の計上と持分法投資利益の減少(△496百万円)(エース証券等)
- ②営業外費用 (前年差+798百万円)
 ヱイクサスにおいてシステムサービス解約損(861百万円)を計上
- ③特別利益 (前年差△2,513百万円)
 前年度のサイバネットシステムの営業補償金計上(800百万円)と、東証コンピュータシステムの不動産売却益計上(1,651百万円)による反動減
- ④少数株主利益 (前年差△748百万円)
 サイバネットシステムや東証コンピュータシステムの減益に伴う減少



連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2010年3月期 期末	2011年3月期 期末	前期末差
流動資産	55,306	57,534	2,228
現金及び預金	16,741	22,045	5,304 ①
受取手形及び売掛金	27,215	28,385	1,170 ②
仕掛品	2,499	1,453	△ 1,045 ③
繰延税金資産	4,448	2,665	△ 1,782 ⑤
その他	4,402	2,984	△ 1,417 ②
固定資産	113,544	111,881	△ 1,663
有形固定資産	78,375	76,343	△ 2,032 ④
無形固定資産	12,424	11,700	△ 724
投資その他の資産	22,744	23,837	1,093 ⑤
資産合計	168,850	169,416	565
流動負債	52,462	55,099	2,636
買掛金	8,701	7,565	△ 1,136 ⑥
短期借入金・1年内返済予定の長期借入金	31,216	33,916	2,699 ①
未払費用	5,854	6,087	232
その他	6,690	7,531	841
固定負債	33,090	30,038	△ 3,052
長期借入金	24,202	21,641	△ 2,560
その他	8,888	8,396	△ 491
負債合計	85,553	85,137	△ 415
純資産合計	83,297	84,278	981
負債純資産合計	168,850	169,416	565

貸借対照表のポイント

- ①現金及び預金 (前期末差+5,304百万円)
短期借入金 (前期末差+2,699百万円)
東日本大震災による不測の事態に備えて手元資金を積み増し
- ②売掛金 (前期末差+1,170百万円)
流動資産その他の工事未収入金を売掛金へ振替え(1,198百万円)
- ③仕掛品 (前期末差△1,045百万円)
ヴィクサスの大型案件終了に伴う減少
- ④有形固定資産 (前期末差△2,032百万円)
減価償却による減少
- ⑤投資その他の資産 (前期末差+1,093百万円)
一部の繰延欠損金を、投資その他の資産の繰延税金資産へ振替え
- ⑥買掛金 (前期末差△1,136百万円)
内製化による外注の減少等
(外注費は前年比16.5%減)

● 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2010年3月期 実績	2011年3月期 実績	前年差
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,985	12,529	4,544
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,687	△ 5,910	△ 222
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,987	△ 1,280	9,706
現金及び現金同等物の増減額	△ 8,778	5,272	14,050
現金及び現金同等物の期首残高	25,465	16,687	△ 8,778
子会社の新規連結による現金及び現金同等物増加額	-	85	85
現金及び現金同等物の期末残高	16,687	22,044	5,357

キャッシュ・フローのポイント

● 営業活動によるキャッシュ・フロー

人件費や法人税支払額等の減少を主因に、前年度に比べ45億円増加しています。

● 投資活動によるキャッシュ・フロー

当期の活動は、有形固定資産取得(2,109百万円)、無形固定資産取得(3,636百万円)等があり、投資水準は前年度とほぼ同額となりました。

● 財務活動によるキャッシュ・フロー

当期の活動は、主に配当金等の支払によるものです。なお前年は借入金を返済しているため、前年差は増加しています。

● 現金及び現金同等物の期末残高

震災の影響により、期末に手元資金を積み増した結果、現預金が増加しています。(＋5,357百万円)

● 配当について

配当

(単位:百万円)

	2010年3月期 実績	2011年3月期 実績
当期純利益 (一株あたり)	3,710 (116.37 円)	2,511 (78.77 円)
配当金 (一株あたり)	478 (15.00 円)	637 (20.00 円)
連結配当性向	12.9%	25.4%

期末配当は、当初計画通り10円とします。
これにより、当期は通年で前年度より
5円増配し、年間20円の配当となります。

トピックス

FSCloudシリーズのサービス提供を開始

富士ソフトのプライベートクラウドシリーズ

富士ソフトが構築したプライベートクラウド基盤を活用したオリジナルのクラウドサービス『FSCloud』の提供を開始しました。まずは、富士ソフトグループが最も得意とする流通分野に特化して「EDI」「物流管理」「雇用管理」の3サービスを『流通クラウド』として提供開始しました。引き続きラインナップの拡充をはかり、流通クラウド分野におけるリーディングカンパニーを目指すとともに、他の業務分野へも拡大することで収益性の高い成長エンジンに育てていきます。



■ 現在の『流通クラウド』ラインナップ

商品名	発売日	サービス内容	主な販売先
FSCloud® EDI (エフエス クラウド イーディーアイ)	2011年2月	小売・卸・メーカーなどがインターネットを通じて相互に商品の受発注や決済の情報を送受信するための次世代EDI規格(流通BMS※)を提供。	中堅～大手小売業・卸業様
FSCloud® Logistics (エフエス クラウド ロジスティクス)	2011年3月	入荷受入・検品、出荷指示・検品、返品処理、在庫管理や棚卸における作業を管理。	中堅～大手小売業・卸業様
FSCloud® PAM (エフエス クラウド パム)	2011年4月	パートタイマー・アルバイトの募集から契約管理までを一元的に管理。	中堅～大手小売業・飲食業・サービス業様

※…流通BMSは財団法人流通システム開発センターの登録商標です。

● 東日本大震災復興支援の取り組みについて

復興支援活動

● 「社内Web掲示板サービス」の無償提供

(富士ソフト)

富士フイルム株式会社様と共同で、被災地の法人を対象に携帯電話やスマートフォンを使って社内サイトを閲覧できるサービスを5月16日から12月31日まで無償で提供します。

被災された企業や自治体、各種団体などで、比較的復旧の早い移動通信回線を使用することによって迅速に情報を伝達することが可能となります。

なお、本サービスはSaaS型で提供するため、短期でのシステム導入が可能で、新規の設備やシステム開発も不要です。

● 法人向け固定電話環境の無償提供

(サイバーコム)

被災地の法人を対象にIP-PBX機器(IP電話の構内交換機)を機器設置日より1年間無償提供します。サイバーコムの自社製品であるIP-PBX機器「Smart IP-PBX」を無償提供することで、被災地の企業や自治体等の電話環境立ち上げを支援します。

義援金

当社グループでは、被災された方々の救援および被災地の復興にお役立ていただくため、会社の義援金に役員・社員からの義援金を合わせて寄付しました。



<参考>
2011年3月期 単体業績



2011年3月期 単体業績

(単位: 百万円)

	2010年3月期 実績	2011年3月期 実績	前年差	前年比
売上高	70,606	71,249	643 ①	100.9%
売上原価	54,061	54,264	203	100.4%
売上原価率	76.6%	76.2%	-0.4%	-
売上総利益	16,544	16,984	439	102.7%
売上総利益率	23.4%	23.8%	0.4%	-
販売費及び一般管理費	15,989	15,066	△ 922 ②	94.2%
販管費率	22.6%	21.1%	-1.5%	-
営業利益	555	1,917	1,362	345.2%
営業利益率	0.8%	2.7%	1.9%	-
経常利益	482	2,104	1,621	436.3%
経常利益率	0.7%	3.0%	2.3%	-
税引前当期純利益	949	2,762	1,813	291.1%
当期純利益	733	2,147	1,413	292.8%
当期純利益率	1.0%	3.0%	2.0%	-

単体業績のポイント

①売上高 (前年差+643百万円)

- ・組込系ソフトウェア開発
△13百万円

- ・業務系ソフトウェア開発
+1,361百万円

インターネット関連事業、流通業、製造業の受注が増加

- ・アウトソーシング事業
+270百万円

- ・その他SI事業 △691百万円
システムソリューション案件等の減少

- ・ファシリティ事業 △283百万円

②販管費の主な変動要因

(前年差△922百万円)

- ・事務委託費 △422百万円
- ・調査研究費 △216百万円
- ・採用研修費 △175百万円
- ・広告宣伝費 △115百万円



単体貸借対照表

(単位:百万円)

	2010年3月期 期末	2011年3月期 期末	前期末差
流動資産	31,274	34,064	2,789
現金及び預金	8,314	12,681	4,367 ①
受取手形及び売掛金	16,622	17,794	1,171 ②
その他	6,337	3,587	△ 2,749 ②
固定資産	102,342	100,006	△ 2,335
有形固定資産	71,853	69,883	△ 1,969 ③
無形固定資産	3,183	2,753	△ 430
投資その他の資産	27,305	27,369	64
資産合計	133,616	134,070	453
流動負債	43,771	45,847	2,075
買掛金	3,832	3,242	△ 589
短期借入金・1年内返済予定の長期借入金	34,136	36,204	2,068 ①
その他	5,802	6,399	596
固定負債	26,099	23,317	△ 2,781
長期借入金	23,948	21,496	△ 2,452
その他	2,150	1,821	△ 329
負債合計	69,870	69,164	△ 706
純資産合計	63,745	64,905	1,159
負債純資産合計	133,616	134,070	453

貸借対照表のポイント

- ①現金及び預金 (前期末差+4,367百万円)
短期借入金 (前期末差+2,068百万円)
東日本大震災による不測の事態に備えて手元資金を積み増し
- ②売掛金 (前期末差+1,171百万円)
流動資産その他の工事未収入金を売掛金へ振替え(1,199百万円)
- ③有形固定資産 (前期末差△1,969百万円)
減価償却による減少



第一次経営計画 (2012年3月期～2016年3月期)

JPPGG戦略の歩み

『第一次経営計画』がスタート

2011年4月 『第一次経営計画』スタート
「戦略の立ち上げ」から「成長エンジンの点火・飛躍へ」

JPPGG戦略・成長エンジンの立ち上げ

2010年4月 『JPPGG』戦略の実践と着実な成果へ!

2010年3月 台北オフィスの支店化

2010年2月
第4の成長エンジン候補
ロボットテクノロジーを選定

2009年10月

『JPPGG』を強かに推進するための組織体制に

2009年7月
成長エンジン第一次候補を選定

富士ソフト社内／グループ全社に向け
戦略マインドの醸成

- 流通クラウド
- シンククライアント+SaaS
- 海外マーケット

2008年11月

骨太の戦略～五つの柱『JPPGG』～を発表

2008年6月 白石晴久 社長就任

● 経営目標

ビジョン

富士ソフトユニークで国の競争力強化に貢献し、
グローバル経済発展にも寄与する
存在感のある企業グループへ

経営目標

事業構造の転換

単体における売上において、プライム・プロダクト(サービス)を売上の柱にし、単体売上構成比の50%に

.....
連結、単体においてプロダクトをはじめとする海外売上を10%に

収益体質の強化

営業利益率を連結で9%、単体で10%以上に

グループ一体運営

骨太の戦略～五つの柱『JPPGG』～をベースに、グループ一体で事業を推進

経営インフラの強化

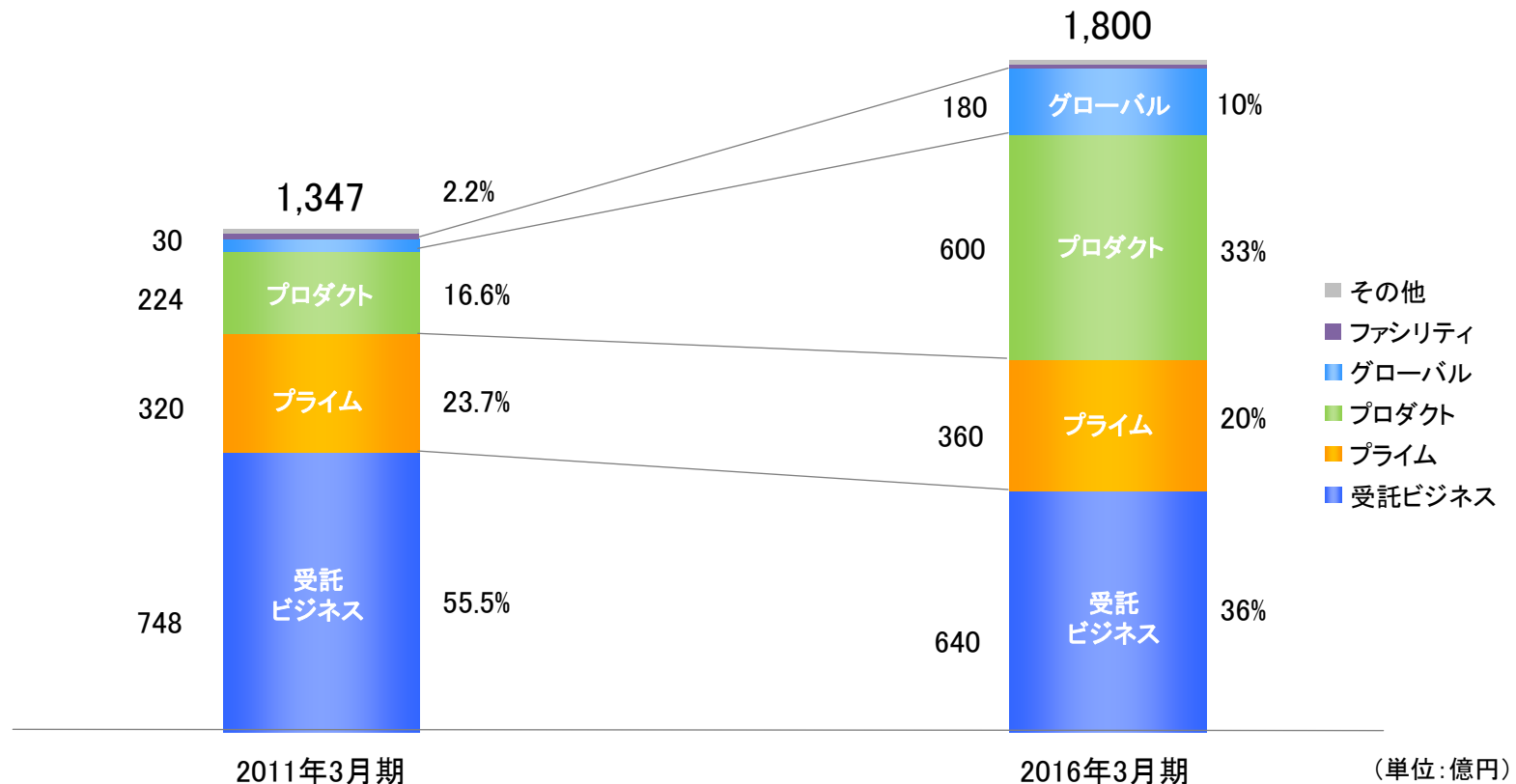
人事機能の強化、業務効率化を図り、第一次経営計画推進体制を強化

事業構造の転換

プライム・プロダクト(サービス)を売上の柱にし、海外売上は総売上の10%にまで引き上げます。

2011年3月期の事業構造(連結)

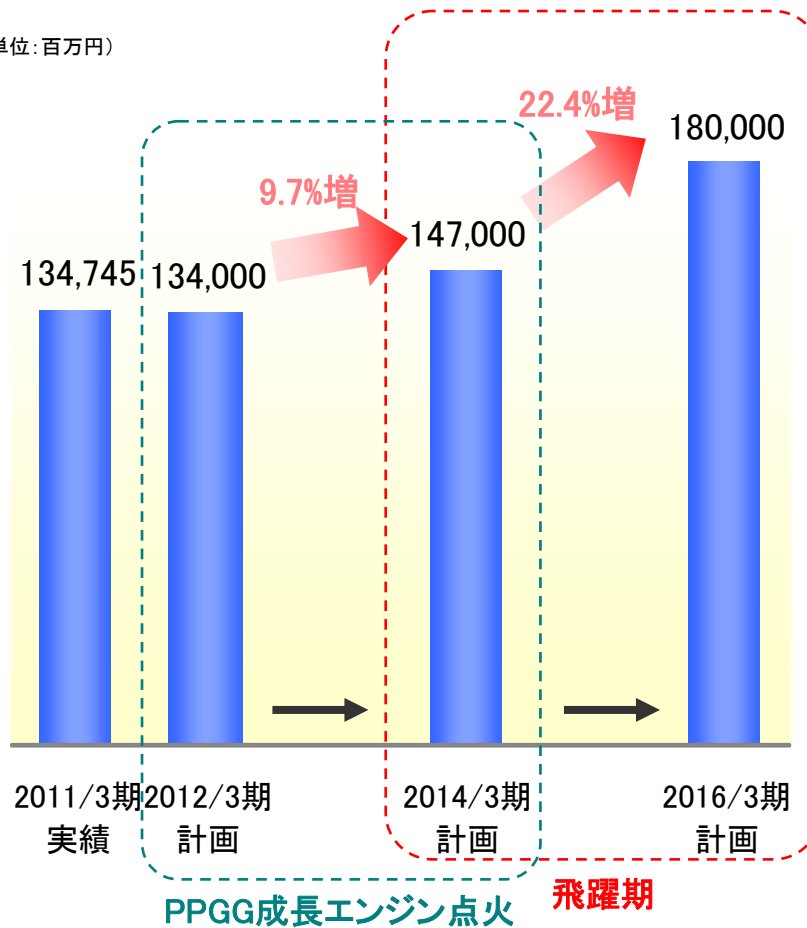
2016年3月期の事業構造(連結)



収益体質の強化

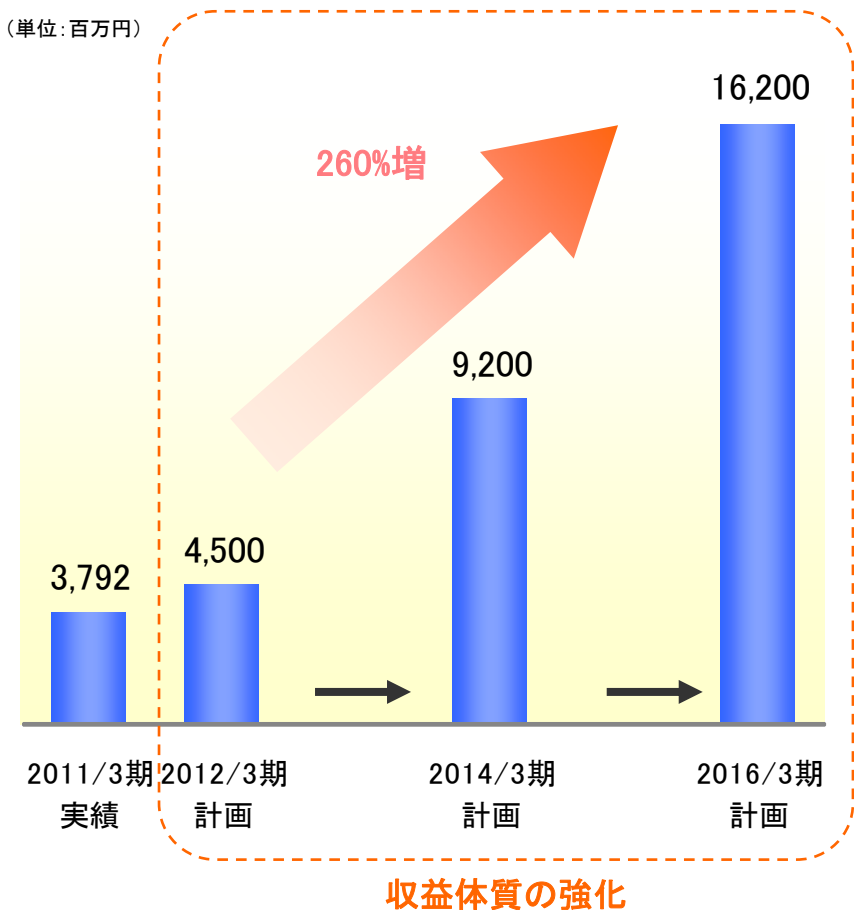
連結売上高の推移

(単位:百万円)



連結営業利益の推移

(単位:百万円)





● グループ一体運営

グループ一体運営に向けて協働体制の確立、リソースの共有を促進していきます。

クロスセル・アライアンスの強化

流通分野では富士ソフト、ヴィンキュラム ジャパン、ヴィクサスにおいて流通クラウドの開発・販売でアライアンスを加速させます。金融分野では富士ソフト ケーシーエス、東証コンピュータシステムがシステム構築においてアライアンス体制を強化していきます。

機能連携強化

富士ソフトを中心に、事業戦略を支える投資・人事・情報システムなど共通する経営インフラについて、相互連携を強化し、グループ一体による施策を推進します。

グループ連携のための推進体制強化

富士ソフトにグループ戦略室を新設し、財務面に加え戦略面でのグループ連携を更に強化していきます。

● 経営インフラの強化

業務効率化

● 業務改革委員会の設置

第一次経営計画の達成に向け、全社の業務を「業務」「戦略」「効率化」「コンプライアンス」「規程」の観点から、業務フロー・規程・手続き・システムを抜本的に見直し、第一次経営計画を支える業務改革を推進する委員会を新たに設置しました。

リスク管理

● リスク管理の強化

内部統制の強化を内部統制委員会にて、プロジェクトリスク管理の強化を生産性向上委員会にて、経営リスク全般の管理をリスクコンプライアンス委員会にて行い、リスク管理の強化を図ります。

戦略的人事機能

● ビジネス変革に対応する“人事部”の設置

前年度まで社員研修や採用、福利厚生等の管理等を行ってきた「人財部」を、中長期的な人材育成・人事マネジメント戦略を立案し推進する組織として位置付け、「人事部」に再編しました。「JPPGG戦略」を主とした当社のビジネス変革を進めるために、必要な組織・教育・評価を戦略的に行っていきます。



第一次経営計画推進体制を強化

● 推進体制の強化

取締役会、経営会議、グループ社長会議



戦略会議、
業務推進会議(単体及びグループ)他

企画・モニタリング

業務改革委員会

人事施策検討委員会

営業強化委員会

生産性向上委員会

社内システム企画会議

経営インフラ強化のための
企画推進体制



事業企画ユニット長会議他

縦串・横串機能

各戦略遂行部門



2012年3月期 連結業績予想



2012年3月期 連結業績予想

(単位:百万円)

	2011年3月期 実績	2012年3月期 予想	前年差	前年比
売上高	134,745	134,000	△ 745	99.4% ①
売上原価	103,295	101,000	△ 2,295	97.8%
売上原価率	76.7%	75.4%		
売上総利益	31,449	33,000	1,550	104.9% ②
売上総利益率	23.3%	24.6%		
販売費及び一般管理費	27,656	28,500	843	103.0% ③
販管費率	20.5%	21.3%		
営業利益	3,793	4,500	706	118.6% ④
営業利益率	2.8%	3.4%		
経常利益	3,647	3,700	52	101.4% ⑤
経常利益率	2.7%	2.8%		
当期純利益	2,511	1,300	△ 1,211	51.8% ⑥
当期純利益率	1.9%	1.0%		

業績予想のポイント

- ①売上高** (前年差△745百万円)
 (マーキュリースタッフینگ除く
前年比0.2%増)
 富士ソフトを中心に受託・プロダクト売上は増加するものの、流通系子会社の売上は減少するため横ばい
- ②売上総利益** (前年差+1,550百万円)
 富士ソフトにおいてプロジェクト管理・人員管理の強化による売上総利益率の改善(23.3%→24.6%)
- ③販売費及び一般管理費** (前年差+843百万円)
 事業構造転換に向けた戦略的投資を積極的に行うため
 (研究開発や教育等)
- ④営業利益** (前年差+706百万円)
 売上総利益の改善による増加
- ⑤経常利益** (前年差+52百万円)
 経常利益が前年差52百万円の増加に留まるのは、営業外収益の減少や持分法適用会社の減収を見込むため
- ⑥当期純利益** (前年差△1,211百万円)
 法人税等の支払増加により減少



● 主なグループ会社の売上高予想

(単位: 百万円)

	2011年3月期 実績	2012年3月期 予想	前年差	前年比
富士ソフト(東証一部)	71,249	73,500	2,250	103.2%
サイバネットシステム(東証一部)	13,019	13,670	650	105.0%
ヴィンキュラム ジャパン(JASDAQ)	9,273	8,500	△ 773	91.7%
サイバーコム(JASDAQ)	6,306	6,400	93	101.5%
ヴィクサス(非上場)	20,025	17,500	△ 2,525	87.4%
上記5社合計(連結消去前)	119,873	119,570	△ 303	99.7%

主なグループ会社の見通し

● サイバネットシステム

製造業向けCAEソフト市場は、新興国において拡大傾向であり、2011年3月期に引き続き好調な売上を見込んでいます。

● ヴィンキュラム ジャパン

中国子会社のヴィンキュラム チャイナを活用し、アジア市場での新規顧客開拓を押し進めていくものの、主要顧客の合併に伴う影響を主因に減収を見込んでいます。

● サイバーコム

LTEのサービスを活用したスマートフォン関連の開発が拡大傾向であり、微増を見込んでいます。

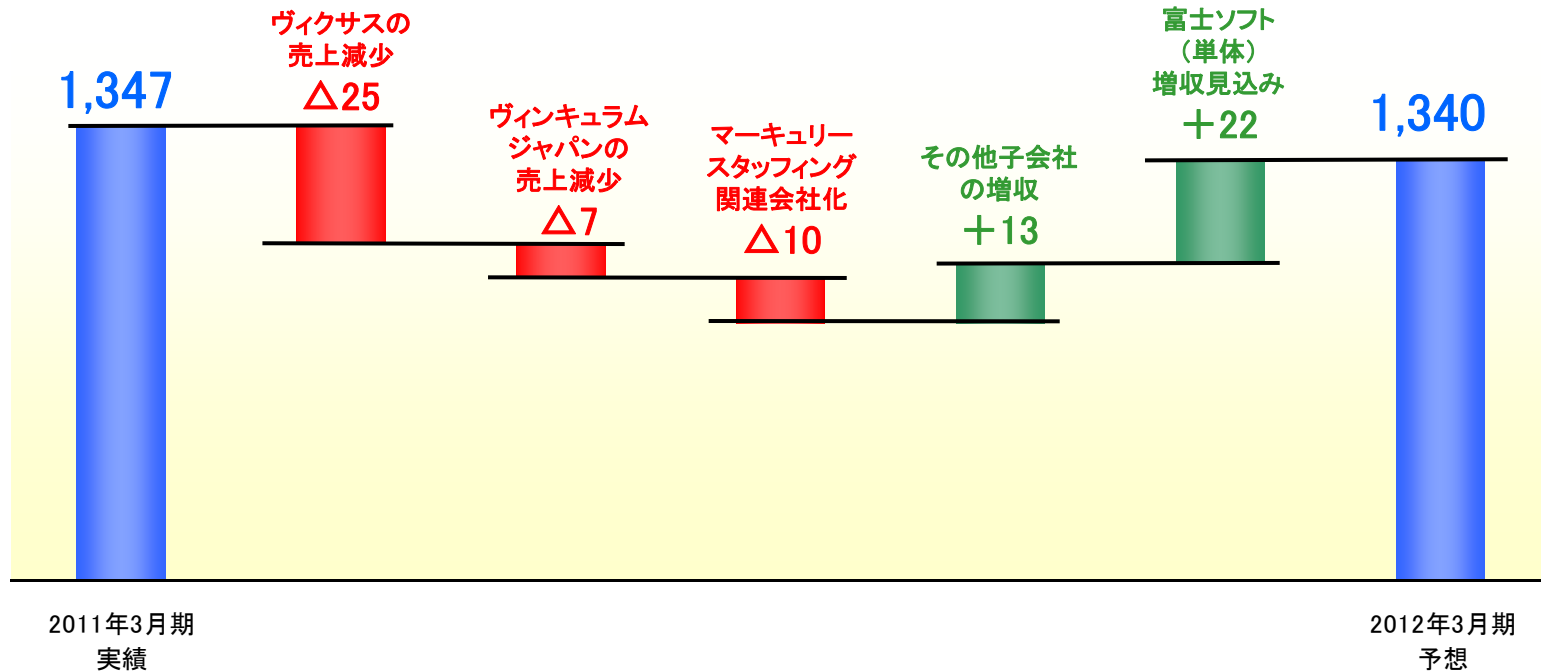
● ヴィクサス

主要顧客の投資抑制が続くことが見込まれますが、利益は確保するよう収益性向上に取り組んでいきます。

単体業績予想は、P.30をご参照ください

売上高増減の内訳

(単位:億円)



流通系子会社は減収が見込まれるものの、富士ソフト単体とサイバネットシステム他子会社が牽引
マーキュリースタッフینگの関連会社化による減収が約10億円



● 配当方針

配当

(単位:百万円)

	2011年3月期 実績	2012年3月期 予想
当期純利益 (一株あたり)	2,511 (78.77 円)	1,300 (40.77 円)
配当金 (一株あたり)	637 (20.00 円)	637 (20.00 円)
連結配当性向	25.4%	49.1%

「安定的な利益還元」という配当方針に基づき、2012年3月期につきましても、一株あたり20円の配当を計画しています。



＜参考＞
2012年3月期 単体業績予想



2012年3月期 単体業績予想

(単位:百万円)

	2011年3月期 実績	2012年3月期 予想	前年差	前年比
売上高	71,249	73,500	2,250 ①	103.2%
売上原価	54,264	55,300	1,035	101.9%
売上原価率	76.2%	75.2%	-0.9%	-
売上総利益	16,984	18,200	1,215	107.2%
売上総利益率	23.8%	24.8%	0.9% ②	-
販売費及び一般管理費	15,066	16,100	1,033 ③	106.9%
販管費率	21.1%	21.9%	0.8%	-
営業利益	1,917	2,100	182	109.5%
営業利益率	2.7%	2.9%	0.2%	-
経常利益	2,104	1,900	△ 204 ④	90.3%
経常利益率	3.0%	2.6%	-0.4%	-
税引前当期純利益	2,762	1,900	△ 862 ⑤	68.8%
当期純利益	2,147	1,100	△ 1,047	51.2%
当期純利益率	3.0%	1.5%	-1.5%	-

業績予想のポイント

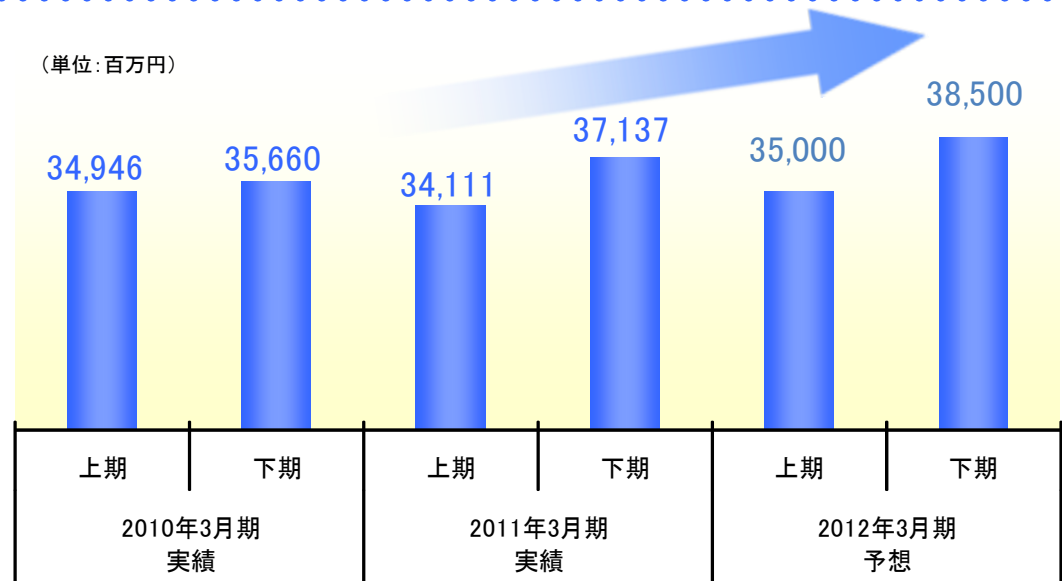
- ①売上高 (前年差+2,250百万円)
プロダクト・プライム案件の売上増加
- ②売上総利益率 (前年差+0.9ポイント)
不採算案件の減少及び待機工数の抑制により改善
- ③販売費及び一般管理費 (前年差+1,033百万円)
事業構造転換に向けた戦略的投資を積極的に行うため
(研究開発や教育等)
- ④経常利益 (前年差△204百万円)
受取配当金(サイバネットシステム等)の減少
- ⑤税引前当期純利益 (前年差△862百万円)
前年度の投資有価証券売却益及び合併差益計上による反動

単体業績の推移

売上高

上期は受注回復による売上増加、
下期はプロダクト・プライム案件の
売上増加による増収を見込む

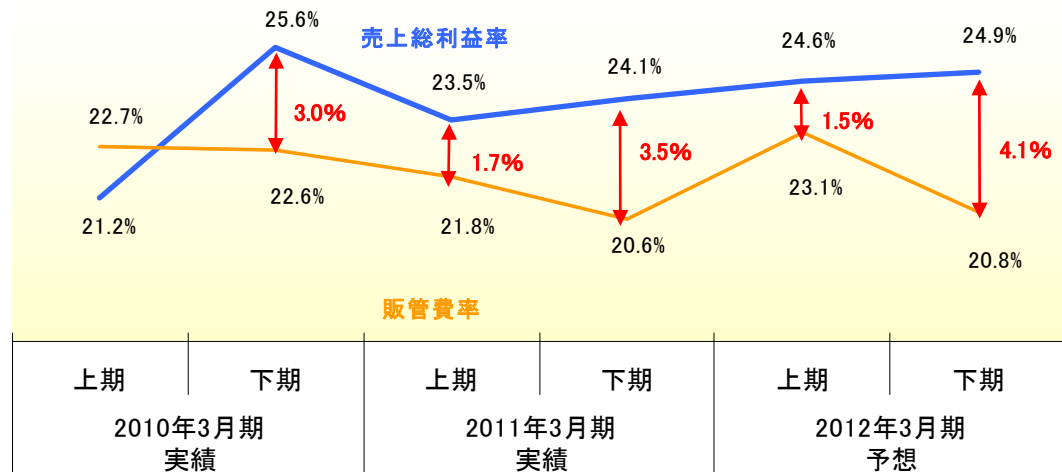
(単位:百万円)



売上総利益率・販管費率

営業力の強化、プロジェクト管理の
強化で売上総利益率を改善(原価
率の低減)

戦略投資(経費)計上の為、販管費
率は、通期で21.9%に上昇





※ 本資料に掲載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて合理的と判断したものです。実際の業績は市場動向、経済情勢など様々な要因の変化により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

また、資料配布の目的が、当社株式の保有継続および追加購入を推奨するものではないことも、あわせてご理解いただきますようお願い申し上げます。